

## あすぴあ登録団体の紹介

こんな活動を  
しています

Vol.  
11

紙面を新しくしました！

登録団体の中で取材を希望する団体は  
あすぴあまでお知らせください。  
広報部会の部員が伺います！

## 小平井戸の会



阪神・淡路大震災発生 20年目の今年1月に設立された「小平井戸の会」は、まだスタートしたばかりの小さな団体です。でも目指すところはとても大きそうです。代表の金子さんにその抱負を聞きました。



阪神・淡路大震災では井戸が市民の生活を守りました！

## 玉川上水ストーリーテラーズ

3月に登録されたばかりで、これから本格的に活動を始めるグループです。  
代表者・宮西咲（みやにしえみ）さんにこれからの抱負などを聞きました。

宮西さんは昨年秋、鷹の台駅近辺の玉川上水の風景が気に入ってきたそうです。「人が住んでいて、自然と共に存した玉川上水界隈」の素晴らしさに感激したそうです。そして、偶然にインターネットで見つけた“日本に居住したことのあるアメリカ人のブログ”に“東京のお気に入りのスポットのひとつ”として鷹の台近辺が書かれていたそうで、ますます玉川上水の魅力を小平だけでなく「世界」にも広めたいと思い始めたそうです。

まず、地域の友人、玉川上水の自然を守りたい人などとグループを作りました。そして、英語で玉川上水の魅力を書いたり伝えたりすると、世界の人たちに知ってもらえると思い、小学校高学年～一般人を対象にした「英語多読を体験しよう」という事業を立ち上げました。

これが、平成27年度小平市市民活動支援公募事業として採択されました。助成金で購入するやさしい英語の本と個人の蔵書を利用して、気軽に英語に親しむ場ができるになります。さらに玉川上水ストーリーテラーズに参加する人を増やしたいという思いも込められています。

史跡玉川上水のことを一緒に学び、英語でパンフレットを作ったり、散策する外国人をガイドするイベントをしたり、フェイスブックで世界へ発信したり、玉川上水を世界遺産にしたい……など夢は大きく広がっているようです。夢に向かって一緒に活動するメンバーを募集しています。

### DATA

活動日 / 不定期（月1, 2回）  
活動場所 / 小平市内の公民館（主に津田公民館）  
会員数 / 10名  
連絡先 / 宮西 咲（みやにしえみ）  
【メール】tadokist@gmail.com



「会を立ち上げるきっかけとなったのは、昨年、中央公民館が発行した冊子『やっぱりこだいらが好き。』の市民記者として、井戸の記事を書いたことです」と語る金子さん。

取材を進めていく中で、市内に残されている井戸が、次々と埋め立てられ、そのため井戸掘り職人のなり手がいなくなる状況に、大変な危機感を覚えたそうです。

地震で水道が止まった時、緊急の飲料水は備蓄水でまかなえますが、洗面や洗濯、トイレ水など生活用水の不足は災害時のストレスを増加させます。井戸があれば給水車に並ばなくて済む水が手に入る所以とても助かります。

そんなことから、今ある井戸の活用をめざし、さらには行政に対して市内の避難所と小公園に井戸を作るよう働きかける運動を起こすのが「小平井戸の会」の目的です。このような団体は全国でも極めてめずらしいそうです。

活動はまず市内にある井戸の戸籍作りから始めました。井戸の戸籍を作る目的は、震災時に“ご近所助け合い井戸”として近隣住民に井戸を開放してもらうためです。

人づてに井戸の所有者を紹介してもらい、現地に出向き、調査を行います。今後はウォーキングを兼ねた市内の井戸探しのイベントも行っていく予定だそうです。

話を聞いてみると、なにか楽しそうで思わず参加してみたいになりました。

多大な資金を必要としますが、金子さんは10年かかるとも実現したいと力強く語っていました。

「この記事を通じて、多くの市民に会のことを知ってもらい、活動に参加してほしい」と話していました。

興味のある方は連絡先までぜひどうぞ。



《道路わきで見かけた井戸。  
使われてる形跡もなく放置  
されたままになっていた。》



庭に残された  
絵になるような井戸。今は  
水も枯れ装飾品のように  
景観の一部となっていた。》

### DATA

活動日 / 不定期（その都度、会員にメールで連絡）  
活動場所 / 市内の井戸のある現場、中央公民館  
会員数 / 15名 年会費 / 1,000円  
連絡先 【電話】080-6689-3097（金子）  
【メール】idonokai@gmail.com

## ぶるーべりー愛犬ふあみりー協会

人と犬が共に幸せに暮らせる、やさしいまちづくりを目指す活動をしている、  
特定非営利活動法人 ぶるーべりー愛犬ふあみりー協会の佐々木邦夫さんに聞きました。

愛犬の数が子どもの数を超えた、というのに、愛犬を自由に遊ばせる場所がありません。佐々木さんたちは市に要望して、4年前の4月から500m以上の公園に愛犬を入れることができるようになりました。そして、昨年春、西武新宿線小平駅と花小金井駅の中間にある「たけのこ公園」に竹を伐採してできた広場を「犬の遊び場に使わせてほしい」と市に要望し、5ヶ月かけて自ら竹の根っこを掘り起こして整地し、昨年10月から月1回、愛犬を自由に遊ばせる「犬のふれあい広場」を始めたのです。「ここに来ればドッグランができるので、犬も飼い主も楽しい思いができる、友達もできるのです。市内にこんな場所があることを知れば参加者も増え、楽しさはわかっています」と、佐々木さん。

愛犬と共に幸せに暮らせるまちづくりを目指す佐々木さんたちは、8年前に「小平愛犬友の会」として発足したときから、月に4、5回、愛犬を連れて高齢者や障害者、児童のための施設を訪問して「セラピー・ドッグ活動」を続けています。4年前の3月に起きた東日本大震災のときは、1ヵ月後に福島県の原発から20キロ圏内に入り犬の救助や支援を行った後、いわき市で300頭の犬の世話を6ヵ月行い、翌年の5月からは南三陸町の仮設住宅に愛犬を連れて行き、住民の心をいやす活動を始め、今年5月で21回になります。

「愛犬と暮らす高齢者は少なくありませんが、飼い主が病気になったりしたらどうするか？亡くなったらどうするか？」愛犬のことで困っている人は少なくありません。しかし、相談する場所がないのです」と佐々木さん。「愛犬の生命に関わることも起こるから問題が起きてからでは遅い。飼う前に知っておかなければならぬことがあります。自動車の運転に免許が必要なように愛犬を飼うにも免許が必要です」と、佐々木さん。私たちも真剣に考えなければなりません。



南三陸 神割崎キャンプ場



小平 黎明会 やすらぎの園



南三陸町の感謝のつどい

### DATA

活動状況 / 犬の落し物クリーン活動（毎月2か所）  
セラピードッグ訪問（毎月6か所）  
東日本大震災関連の活動  
犬のふれあい広場（毎月第一土曜日 たけのこ公園）  
会員数 / 45名  
連絡先 【電話】042-345-1700（佐々木）  
【メール】aiken11@bdfa.org

「セラピードッグ活動」に参加したい方 募集中！